

コラム 千林「強頸地蔵尊」（清水1丁目）

旭区には、古くから千林の「強頸絶間址」が言い伝えられている。

かつて村名であった「千林」は「森小路の如く林にてもありしならん、或いは「千林」は「瀬林」より転化せしならん」ともいわれ、ここで気になるのは「瀬林」である。

瀬は浅瀬や流れの急な所をさし、この強頸絶間は茨田堤（淀川の堤防）の決壊場所である。

『日本書紀』には「大字千林一の絶間これなり。絶間は堤の決潰せし址をいふなり。其址池となりて絶間池と称したが、早くより水涸れたり。此地往古は河内茨田郡に属せり。茨田堤は淀川の堤防なり。仁徳天皇11年、茨田堤を築くに、二の絶間ありて築き難し。天皇、夢に武蔵人強頸、河内人茨田連衫子（コロモノコ）を以て河伯を祭らば成らんとの神諭ありて、其人を覓め給ひて之を得給へり。その強頸の人柱となりし處、即ちこの絶間なり。-----。」

この地に今も、強頸地蔵尊がまつられている。おまつりをされている方によれば「日本書紀にもあるように、昔は河内国の百姓さんたちは、淀川が決壊して水害で困る。強頸さんが人柱になったら逃れられると相談したら誰もいない。くじびきをして、当りは強頸さんが当たりクジを握っていた。水害がなくなった。百姓さんもよろこんだ。」と話されている。



写真■強頸地蔵尊

コラム あの戦後いくばくも経っていない頃の遠い日の思い出

千林駅のすぐ脇のガードより少し北寄りに京阪電車のガードがもう一つあった。通称「野崎ガード」である。これをくぐると何故か急に、異境の地に入ったように思った。

当時、今の内環状線を渡ったところに戦後すぐに新所帯をもって来た姉の所へ乏しい生活を助ける為、母に頼まれてこれも又わずかな生活の糧を運ぶのである。

ガードをくぐり、細い道（当時は道幅はせまかった）を少し行くと左手道筋に用水路が流れて居り、各家の入り口に小さい橋が架かっていた。

心細く歩いていくと、正面にこの地に古くから祭られている八幡大神宮があった。石清水八幡宮の分霊を奉斎し「不焼宮」ときかされていた。それでも子供心に素通りすることなく毎回拍手を打って拜んだ。

先日懐旧にかられこの道を歩いた。勿論もうあの川はない。

しかしここに川が流れていたという名残か、白線がずっと続いていた。そしておぼろげな記憶の中にあるお店が

60年以上の年月を経て、何軒が残っていた。お茶の梅田三春園、辻本板ガラス屋さん、清滝温泉、大きなお屋敷の上野さん。北清水町、上辻町という名は昭和46年(1971)の町名変更で清水2丁目、3丁目と変わっていた。

しかし北清水公民館、又清水北公園にはかつてのその旧町名の由来、変遷を記した石碑がある。



写真■現在の野崎ガードと推測される場所
(平成20年(2008)10月撮影)

清水3丁目『上辻町』

清水北公園に旧町名継承碑「上辻町」があります（碑文）

当町は明治初頭、東成郡上辻村の一部であった。大正14年(1925)4月大阪市に編入され東成区上辻村の一部となり、昭和7年(1932)10月行政区画の変更にもともない旭区上辻町となった。同46年(1971)9月住居表示の実施にもともない、清水2～3丁目、今市2丁目の各一部となった。

町名は、京街道から分かれて河内国へ入る道路が上つ道（北の道）と、下つ道（南の道）の二つがあったことに由来する。摂津と河内を分ける道の摂津側の境に上辻村、下辻村の二村があった。

異説として、東成郡当時の村社八幡大神宮の神の辻が上の辻に変わったとするものや、放出の阿遅速雄神社への参道にあたるとの説もある。
(平成6年(1994)2月 大阪市旭区役所)



写真■旧町名継承碑「上辻町」



写真■清水北公園にある旧町名継承碑（左側）

清水3丁目「西光寺の今昔」

～西光寺（浄土真宗 本願寺派）～

旧西光寺は平成14年(2002)9月解体
新西光寺は平成15年(2003)5月新築



写真■現在の写真



写真■平成14年(2002)頃